

令和6年度 長野市保健所運営協議会 会議録

- 1 日 時 令和6年8月29日（木）午後1時30分～午後3時まで
- 2 場 所 長野市保健所2階会議室A B
- 3 出席者 委員14名、事務局19名
 - (1) 委 員 釜田秀明、杉山秀子、松井雅彦、小林博昭、酒井勇司、原澄、淵井誠也、西島勉、森田義一、鈴木隆、伊藤君代、板倉重彦、松島敏史（代理者出席）、佐藤裕美
【欠席委員 馬島園子、平沢久史】
 - (2) 事務局 小林保健所長、河西保健所副所長兼総務課長、佐藤健康課長、大河内食品生活衛生課長、小林環境衛生試験所長ほか
- 4 公開・非公開 公 開
- 5 傍 聴 者 な し
- 6 報道機関 長野市民新聞
- 7 会議概要

- (1) 開会【午後1時30分】
- (2) 委員委嘱
- (3) あいさつ

<釜田会長>

本日は、令和6年度の長野市保健所運営協議会を開催しましたところ、委員の皆様には、大変ご多忙のところ、ご出席をいただき感謝申し上げます。本日お集まりの皆様は、公衆衛生や保健医療などにつきまして、それぞれの立場で対応いただき御礼を申し上げます。先頃、南海トラフ地震臨時情報が発表され、平常時の備えの重要性について再認識をいたしました。また、新型コロナウイルス感染症についても、感染症法上の位置付けが5類に変更され、1年を経過しますが現在も感染者が、蔓延している状況です。

本日は、これまでのコロナ対応や今後の新たな感染症に対する取り組みを、保健所から詳しく説明していただきます。委員の皆様には専門的な立場で、様々な観点から今後の保健所の施策に寄与するような、忌憚のない意見をいただきたいと思います。

<長野市保健所長 宮島>

本日はお忙しい中、長野市保健所運営協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また日頃から長野市の公衆衛生保健医療につきまして、様々な分野から、ご協力を賜っておりますこと、この場をお借りして厚く御礼申し

上げます。さて長野市では、子供たちの未来への応援、結婚、妊娠出産、子育てまで切れ目ない支援、また、移住定住の促進、中小企業のデジタル活用や人材育成支援、新たな産業の創出などの取り組みを通じまして、未来に向けて、本市がより魅力あるまち、幸せ実感都市長野となることを目指しております。その中で、長野市保健所は、地域保健法で定められた保健所業務のほか、本市の保健衛生行政の拠点として、健康福祉のまちを目指し、生涯健康づくりの推進等に取り組んでいます。本日は先ほどお配りしました議事にあります通り、当所が取り組んでいる様々な事業について説明をさせていただきます。また、先ほど会長からお話がありましたような新興感染症の問題、そして自然災害に対する危機管理につきましても、取り組みを説明させていただきたいと思っています。委員の皆様には、地域保健及び保健所の運営に関して、忌憚のないご意見をちょうだいし、今後の施策に生かして参りたいと思いますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします

(4) 議事

ア 保健所業務説明「令和6年度 長野市保健所の概要」

説明省略（各課長から「令和6年度 長野市保健所概要」に基づき説明）

【質疑応答・意見交換】

<小林委員>

最近では、避難所の口腔衛生のことを取り上げられており、避難所における歯科の分野が注目されてきました。口腔衛生、端的に言えば歯磨きですが、閉鎖されたような環境の中でお口の中をきれいにするということは、感染症予防につながり、インフルエンザ等の感染防止に非常に重要であるということが今言われています。能登半島地震の時には、県歯科医師会とともに協力して避難所の支援業務にあたっていました。

<板倉委員>

精神障害に関しては年々増加傾向にあるということで承知しております。精神障害のある方を含めて自殺対策についてお話しさせていただきます。地域生活を送っていく中で、福祉・保健について医療との連携が欠かせない状況でございます。

福祉医療について長野県、長野市の場合、精神福祉手帳を持っていると通院医療費の助成が受給できますが、入院についての助成は一切ございません。地域生活を指導する医療に適切に関われること、初期の段階で適切に医療に関われることが出来ると非常に医療費の抑制に役立つと思います。他県での自殺対策の事例で、自殺未遂者の任意での家族会をされているそうです。自殺未遂者の

ご家族もストレスによる精神障害や、精神的に落ち込むこともあり、家族会で支えあいを実施したという実績もございます。今後、検討していただけたらと思っております。

＜森田委員＞

食品生活衛生課の説明で、公衆浴場についての説明がございました。先日、別の会議で、公衆浴場の業者と話をした際、業界は現在非常に低迷しているとのことでした。今回の条例の改正にあたり、事業者への周知として主だったものをご紹介いただければと思います。

＜食品生活衛生課長＞

ホームページ、広報紙及びラジオを活用し、市民への周知を行うとともに、事業者に対して通知を実施し、個別にお知らせをしております。また、ポスターを製作し、その掲示依頼をしております。ただ「条例が変わりましたので、守ってください」ということだけではなく、小さなお子さんが一人でお風呂に入っているのを見かけられた際には、少しお声がけをしていただき、お子さんの見守りにご協力いただけるような周知内容にしております。

＜森田委員＞

ありがとうございました。

＜釜田会長＞

ポスターの掲示場所はどちらになりますか。

＜食品生活衛生課長＞

主に温泉、公衆浴場、あとは支所や保育園に掲示のご協力をいただいております。

イ 今後の新興感染症に対する取り組みについて

説明省略（健康課長から「長野市感染症予防計画」、

総務課長から「長野市保健康危機対処計画」に基づき説明）

【質疑応答・意見交換】

＜松井委員＞

感染症というのは時期に合わせて粛々とやっていくしかございません。初期の感染対策の場合は、感染症が拡がると、人と人との接触をなくす、手洗い、ワクチンを使う、といった基本的な感染対策を行うしかないと思います。感染

症の流行は繰り返すことだと思います。私たち更級医師会としても、できる限りの協力はさせていただきたいと思っております。

<釜田会長>

長野市医師会も同様の意見です。今後どのような感染症が流行しても基本に戻ることが大事です。新型コロナウイルス感染症の流行初期から平時に戻り、コロナに対する意識が低下したことが、今一番怖いことだと感じます。

ウ ながの健やかプラン 21(第二次)、長野市自殺対策行動計画(第二次)について

説明省略(健康課長から「ながの健やかプラン 21(第二次)」

「長野市自殺対策行動計画(第二次)」に基づき説明)

<質疑応答>

<釜田会長>

自殺対策については、特に子供の自殺を議題として、9月に長野市医師会で講演会を計画しております。長野県では高校生の自殺が他県に比べて多いということです。自殺の原因として成人は貧困、高校生以下はいじめが考えられますが、警察のご意見お願いいたします。

<委員代理 長野中央警察署 斎藤>

警察においても精神保健、精神障害の影響から、暴れたり、自殺を図ったり、行方不明になる取扱いが1日に2、3件ございます。中には既に医療につながっていたり、ご相談されているケースもありますが、ご本人が自身を病気と自覚していなかったり、受診を拒否したりする場合もございます。また、ご家族も精神保健等に関する知識が不足しておりますので、すぐに医療や相談窓口につなげることは難しい状況にあります。

自殺の原因というのはかなり幅広く、学生の場合はいじめや学業の問題、成人の場合は労働等の問題があります。相談やSOSが発せられず、最悪の事態に至ってしまうというケースも少なくありません。したがって、警察に110番通報があり現場へ急行した際には、人命救助が第一と考えております。また、ご存命だった場合は、本人の家族、警察が保護した後に県へ23条通報をしております。その他の場合であっても、本人の家族の了解を得て、保健センターへご相談させていただいており、生命を守るために活動しております。引き続きご協力をよろしくお願いします。

<板倉委員>

県と子どもの自殺対策を実施しています。長野市の場合、子供の自殺が増加

傾向にあり、その中には精神障害が要因となる方もおりますので、長野県精神保健福祉士協会として関わらせていただき、医療や福祉につなげていきたいと思っております。

＜釜田会長＞

自殺対策というのは喫緊の課題ということで、医師会、保健所、精神福祉関係で密接な連絡を行っていきたいと思います。

エ 新型コロナウイルス感染症対応記録について

説明省略（総務課長から「新型コロナウイルス感染症対応記録」に基づき説明）

オ 保健所の運営に関する質疑・意見交換

＜杉山委員＞

COVID-19の対応記録について、貴重な資料をありがとうございます。個人的には、過剰対応もあったように思います。検証していただいて、次に備え、よりよい対応ができるようにしていただきたいと思います。

＜酒井委員＞

現在では、マイコプラズマ肺炎等の感染症が報道されております。今後もどのような感染症が流行するかわかりません。コロナの感染拡大の際には、十分な情報提供がなされないために、「あそこの学校で患者さんが出た」や「あそこの店でクラスターが発生した」との不確かな情報が、いつの間にか確かな情報として人から人へ急速に伝わってしまいました。現在では、厚生労働省が発出している定点把握が県単位で発表されていると思います。情報の公開については、難しい面があると思いますが、長野市単位若しくは保健所単位で出す等のより詳細な情報の発信を望みます。ぜひともご検討をお願いします。

＜原委員＞

新型コロナウイルスワクチンの接種の際は、各場所で医師会・歯科医師会の先生方、看護師の方、薬剤師会の薬剤師の方にご対応いただくのですが、長野市では事故等が一切ありませんでした。薬剤師の中でも、病院業務等に従事し、慣れている薬剤師でお手伝いさせていただきました。

＜淵井委員＞

新型コロナウイルスについて、病院ではいまだに苦勞しており、医療機関等の現場では収束はしていないと思います。新しい感染症が発生したら、お金と時間、人員が多くかかります。そこを省いてしまうと結局同じ問題の繰り返し

になってしまうことが病院でも話されております。「ながの健やかプラン21」もだんだん功を奏しているように病院全体で感じています。ただ、人間どうしても健康寿命は延びても死期は来ますので、それと同時に死に方とかＡＣＰのようなものをもう少し検討していかないと根本は解決しない状況であると思いました。

<西島委員>

新型コロナウイルスが感染拡大した際に、長野市の公共施設がいくつも長期間閉鎖されました。他の自治体に比較して、当時の長野市の対応は過剰だと思えるケースがありました。例を申し上げますと、長野県の県立図書館は利用者に対して利用時間は30分以内にしましょうとアナウンスし運営を続けていたが、市の図書館は2つとも完全閉鎖されました。市の体育館もすべて閉鎖されましたが、当時東京23区のスポーツセンターは、スポーツセンター内のレストランは閉鎖し利用者に対してはマスク着用と手洗いを徹底してスポーツをしてくださいという積極的なアナウンスをし、すべて運営していたそうです。

もう一つ例を挙げますと、長野市に9か所ある高齢者向け入浴施設老人憩いの家が長期間閉鎖しました。現在、利用者は戻りましたかと担当者に聞いたら、閉鎖前の7割ぐらいであり、施設によってはもっと減少しているとの回答がありました。閉鎖後の運営に当たって、老人憩いの家の担当者からお話をお聞きしました。利用者にコロナの時にどう過ごされていたかのアンケートを実施した際、営業を継続していた民間の銭湯や日帰り温泉・入浴施設へ行きましたという回答が多数あったそうです。公共施設のみ閉鎖しても民間の施設は営業しているという齟齬を感じました。当時の長野市保健所長である小林所長は、フレイル予防などのために、社会生活の維持が大事だとおっしゃっていたのですが、実際の市の最終決定では、危機管理部門の意見に引っ張られ、運動や、社会生活の水準が低下してしまった感じがしました。保健所長は、感染防止をする最前線でもあり、市民の健康増進のため、フレイル予防等の両方を考えていなければならないので非常に難しい判断であったと思います。次に、大きい感染拡大があった際に、社会生活の維持はどうしていくのかについては少し疑問が感じられました。

新型コロナウイルス感染症対応記録では先ほどのことは一切書いてないので、市の中でスポーツや、高齢者の施設の担当部局と保健所がどのようにバランスを取っていくのが課題だと思いました。

<釜田会長>

新型コロナウイルスに関しては、風評被害が多数ありました。特に病院に対

する被害がひどく、そういった事も含めて検証が必要です。老人憩いの家に関しては、私も参加している委員会で、経営が成り立たないから廃止していくとの話がありました。ですが、利用者からは営業してほしいとの声があり、今の利用料金では経営が成り立たないから料金について見直しをしなければならなくなります。そういった面でも、新型コロナウイルスで利用者が離れてしまうと離れた人がなかなか帰ってこなくなってしまう。そのようなことも踏まえて、またいろいろなことを検証していければいいと思っています。

<伊藤委員>

新型コロナウイルスの流行の際に、できなくなったことは食育です。それから料理、塩分を控えましょうと啓発活動を実施している最中に、クラスターが発生し、そこから3年間調理実習は控えてくださいと言われました。ですが、私たち長野市は最善を尽くそうということで一応実施しておりました。また、コロナ禍前は、子どもプラザで紙芝居やおやつ作り等の様々な活動を実施しておりましたが、一切実施できなくなったこと、また、その活動が未だに再開できていないということが、少し残念です。子どもプラザの利用者数が定員を非常に上回り、私たちが活動できる時間を確保できないという話がありました。その点を今後どうしていったらいいかと思います。また、新型コロナウイルスの流行する以前に気になることが多くございまして、朝ご飯を食べないということ、学校の給食で沢山食べれば家に帰って食べなくていいといったことを子供がさざっと言うことがなんとも言い難いことがたくさんありましたので、また少しずつ紙芝居やおやつ作りといった活動を新型コロナウイルスに気を付けながら実施していきたいと思っています。

<鈴木委員>

調理師会が高齢化の影響で、参加会員に若い人が入ってこないという厳しい状況になっております。調理師さんに飲食店の現況を聞くと、店はインバウンドのおかげで景気が戻ってきたという話や、市内の宴会主体のお店では客足が戻らず、個人客相手の小売店はかなり忙しくなっているとのことでした。新型コロナウイルスの影響で、飲食業界は少しずつ変わってきているような今日この頃だと思っています。

(5) その他

なし

(6) 閉会【午後3時】